

紹介します！

MY INTRODUCTION

あなたの大切なもの、手作りの作品、お気に入りの写真や町の景色などを紹介します。



申込み 秘書広報課 ☎557-7497

● 町からの紹介 ●



昭和三十年代の生活風景

現在、耕心館の蔵では「なつかしい日本 心のふるさと昭和三十年代」を展示しています。
当時のテレビやラジオ、ちゃぶ台や茶だんすなど、さまざまなものが展示されていて、まさに昭和三十年代の日本の生活風景を再現してあります。
今月24日(日)までの展示となります。期間中は、午後8時まで自由にご覧いただけますので、夏休み期間にぜひ一度、訪れてみませんか。

問合せ 耕心館

☎568-1505

● 石川 一郎さんからの紹介 ●



この植物をご存じですか

これは「半夏生^{はんげしょう}」という植物で、別名カタシログサ(片白草)とも呼ばれています。
暦の二十四節気、夏至(6月21日ころ)から数えて11日目、これを半夏生といいますが、このころに花が咲き、葉の上部が白色に変わるので片白草の由来となっています。花よりも観葉を楽しみます。
ドクダミ科の多年草で水辺に生え、根は咳止め薬に用います。
わが家では裏の日陰に自生します。

やましたサイト

山下 奉文大将の終焉^{しゆうおん}の地の周辺は、関係者の努力により見違えるように整備されました。

大将はパシバル中将(英)の守るシンガポールを攻略し、やがて救いのないフィリピン戦線に派遣され散々な敗北を喫します。そして、軍人らしい銃殺刑は与えられず、絞首刑の判決が出ます。

その日の将軍は、はるか日本へ向き深く一礼してからロープを頸^{くび}に掛けられ、日本の命運を背負って静かに絶命しました。

私がいとも思ひ起すのが、初代文化庁長官今日出海^{ひてみ}氏の言葉です。「戦勝国が一方的に戦敗国を裁くことは容易なことではない。山下は法廷で隷下部隊の残虐事件の責任を問われて処刑された。追、詰められ、死にも狂^{くる}になった兵隊達の常軌を逸した行為は私達の胸を締めつける。無辜^{むこ}の民を殺戮したことは確かに罰せられなければならない。だが戦争では昂奮^{かうふん}し精神異常者になつて殺戮するか、冷静に秩序整然と原子爆弾を投下して殺戮するかで、一方の司令官は人類の敵として絞首刑を受け、他方の司令官は人類の救いの主になると、う旋^{まわ}があるならば、戦争は呪^{のろ}うべきである。」

将軍が永遠の眠り

についた緑濃いマキリン山麓の地は、今では「ヤマシタ・サイト」と呼ばれておりました。



やましたサイトにて(フィリピン)

瑞穂町長 石塚重典 所門

町長
コラム